



TPPから日本の食と暮らし・いのちを守るネットワーク

考えてみよう! TPPのこと



クリック▶

ようこそ
沖縄ティーファクさん

トップ トップニュース 主要ニュース 農政 営農 JA 経済 地域

文字サイズ 小 中 大

ログオフ

特集 動画 論説 フォト 一村逸品 気象データ

検索

購読申し込み

トップ > 特集 > ヒトモノ創る

戻る

沖縄県沖縄市 特有の赤土で琉球紅茶 内田智子さん (01月16日)

100グラム1万円。そんな紅茶が沖縄県にある。名は「琉球紅茶」。今や欧州の紅茶会社からも取引依頼が相次ぎ、香り豊かで味わいがあると専門家から絶賛されるほど注目を集めている。仕掛けたのは生産から加工、販売まで手掛ける沖縄県沖縄市の「沖縄ティーファクトリー」の代表、内田智子(45)。沖縄特有の赤土に目を付け、「世界に通じる産地になる」と確信した。今年中に仲間と生産法人を立ち上げる予定で、夢に向かってさらに歩みを進める。

「深い香り。冷めても確かな風味。この一杯のために、10年以上もの時間をかけた」。琉球紅茶を飲みながら満ちた笑顔を浮かべた。

試行錯誤10年 内田が琉球紅茶を作り始めたのは2000年。夫の転勤で3年間スリランカに住み、本場の紅茶の味を知ったのがきっかけ。帰国し、子育ての場として選んだのが沖縄。赤土を見た時「赤土は神様にしか作れない紅茶の土」とスリランカの人たちが自慢していたのを思い出した。

養分の少ない赤土で茶は、紫外線をたっぷり浴びて風味の良い紅茶になる。しかも紅茶の木は寒さに弱い。「沖縄なら最上級の紅茶が作れる」。ひらめいた。

目を付けた苗は、鹿児島県で原種が保存されていた「べにはまれ」。取り寄せて挿し木で苗を作り、借りた農地で栽培。だが、2000本の苗木を全て枯らしてしまった。胃に穴が開くほど落ち込んだ。それでも「本当に良いものを作り上げるのは手間も掛かる」と思い直し、翌年には5万本の苗木を導入、たくましく挑戦を続けた。

04年。栽培は軌道に乗り始め、県内農家に呼び掛けて生産委託も始めた。たとえ台風の被害などがあっても「失敗は糧。世界に誇れる琉球紅茶を作ろう」と励まし合ってきた。金武町の農家、伊芸政秀(63)は「内田さんが作物ができていく赤土に光を見いだしてくれた。琉球紅茶には農家の期待が詰まっている」と希望を託す。

09年、「琉球紅茶」がデビュー。価格は高くても味を評価してくれる人に売り込んだ。一口飲めば、多くのバイヤーがうなずいてくれた。手応えを感じた瞬間だった。

法人化めざす 現在、県内では金武町や恩納村などに14農家が1.98ヘクタールで栽培に取り組む。今年は成木が増え、提携農家と法人化を目指す勝負の年となる。

「琉球紅茶が世界に売り出す量が増えてきた時、多くの農家が笑顔になるイメージをずっと持っている」と内田。成功に揺るぎない確信を持ち続ける。

【地域の概況】

沖縄県はインドのアッサム地方と同緯度にある。「沖縄ティーファクトリー」によると世界の高級紅茶産地は北緯30度以南にあるという。琉球紅茶は、金武町の農家らと共に特産化を目指し、品質が確保できる赤土、営農技術で作られる。

関連記事

- 【ヒトモノ創る】しまなみの魅力GTで発信 参加者に“元氣”提供 愛媛県今治市の西部知香さん
- 【ヒトモノ創る】ジャンボニンニクで荒地再生 緑大切に産地づくり 広島県尾道市の上田龍男さん
- 【ヒトモノ創る】「いりどり蘭」で勝負 養蚕一筋 伝統復興へ奔走 埼玉県秩父市の宮崎豊二さん

こんなページも読まれています

情報はありません



ニュース カテゴリー

主要 農政 営農 JA 経済 地域

ニュース ランキング

- 今秋から米全袋検査 測定器導入に全額補助 福島県方針
- 「暫定規制値は安全」 食事検査で報告 文科省放射線審でコブふくしま
- 水でセシウム分離 除染土壌戻せる 産学連携技術開発
- 米国でも反対広がる TPPを慎重に考える会会長 山田正彦氏に聞く
- 震災被災地 生協組合員増える 買い物弱者支援好評

検索

▶ e農サーチとは?

注目 JA 行政 研究機関 その他

e農サーチ ランキング

- 【農林水産省】平成24年度 農林水産予算概算決定の概要について
- 【農林水産省】「24年産稲の作付に関する考え方」及び「100 Bq/kgを超える米の特別隔離対策」について
- 【東京農業大学】テレビ出演 1月6日(金)21:54~ テレビ東京「地球VOCE」 研修員 山口鈴香さん、館博教授(醸造学科)
- 【農林水産省】「2011年農林水産研究成果10大トピックス」の選定について
- 【農林中央金庫】全国JA貯金・貸出金残高速報(平成23年11月末現在)

紙面のご案内
広告ガイド
刊行物のご案内
採用情報

【PR】e農ネット会員登録(無料)受付中!
【PR】日本農業新聞の購読申し込みはこちら